

佐伯地区医師会

## 知っておいて、自分の色覚

先天性の色覚異常は、日本人男性の20人に1人、女性の500人に1人の頻度です。国内で300万人以上に見られ、決してまれなものではありません。ただし、その程度は人によってさまざまで、軽度であれば検査で指摘されない限り気付かないことも多いのです。しかし、中には社会生活に支障を感じるくらい、程度の強い人もいます。

すべての色は光の三原色といわれる赤、緑、青の三つの光の組み合わせで作られています。色を感じる視細胞も、赤に敏感なタイプ、緑に敏感なタイプ、青に敏感なタイプの3種類があります。色覚の異常は、この3種類の視細胞のうちのどれかが足りなかったり、働きが悪いために起こります。

色覚検査は以前には小学生全員に行われていましたが、いろいろな理由でここ10年以上ほとんど行われていませんでした。そのため、自分が色覚異

常であることを知らずに就職試験の段階になって希望する職業に就けなかったり、実際に仕事を始めて困る場面があるという問題が出てくるようになりました。現在、ほとんどの職業に色覚異常に関する制限はありませんが、パイロットなど一部の職業にはまだ制限があります。

自分の色覚の特徴を知っておくことで、色を間違えやすい状況、注意すべきポイントがよく分かりますし、就職後に問題に気付いて転職するなどの回り道も少なくできます。学校で色覚検査の希望を聞かれたときは、ぜひ行うようにしていただきたいと思います。

アイビー眼科

院長 田中民江